図書館友の会
けやき
ニュースレター

けやき

41号
2013.5.13

◇特集　手に取ってほしい 読んでほしい この本
◇Topics　図書館で発表会／えほんのひろばinきょうと
◇Report　スライド&トーク 森が教えてくれたこと

特集　手に取ってほしい 読んでほしい この本

おすすめの本・24冊

好評の本の紹介特集、２年ぶりの登場です。けやき会員やご縁のある方々におすすめの本を紹介してもらいました。様々な分野の本が集まっています。本との新たな出会いに、またものを考え人を思うきっかけになればと思います。（次ページより）

TOPICS

図書館で発表会

けやき主催・左京図書館共催

今回で３年目の「図書館で発表会」は、２月１７日から３月１６日までの１ヶ月間開催され、好評のうちに終了しました。

この催しは、図書館利用者が制作した作品や、調べたことを展示し、それを作るとき活用された本・ＤＶＤなども紹介・展示する催しです。他の方がどのように図書館を利用しているかがわかり、また今まで知らなかった分野への興味がわいてくるような企画です。実際の作品や、利用した本や資料をその場で手に取ることができます。すぐにその本を借りることもできます。

今回は、小学生から大人まで６点の応募があり、ゴリラ・塩・たねの研究、川柳、刺し子の作品、平和を考える会「平和のテーブル・京都」の放射能の研究など、様々な分野の力作が展示されました。

この「図書館で発表会」は、図書館利用者が作品を発表する貴重な場になっています。

毎年、１２月から１月頃、出品の呼びかけがあります（変更になる可能性もあり）。

みなさんも、図書館でたくさんの本を借りて、自分の作品を発表しませんか？　（伊藤）

えほんのひろば in きょうと

子ども読書の日記念事業●けやき主催・左京図書館共催

４月２０・２１日の２日間、子ども読書の日記念事業として「えほんのひろば in きょうと」が開催されました。図書館の上の階にある大会議室いっぱいにダンボール製の特製書架面展台が置かれ、その上に300冊余りの絵本が表紙を見せて賑やかに並びました。

今年は例年のおすすめ絵本の他に、触れる機会の少ない点字絵本を並べ、さわる絵本コーナーとして特別展示しました。「ほら、指でさわるのよ」と言いながら、親子で興味深そうに絵本の点字にさわる姿が見受けられました。

また今回は、、もっと多くの人に「えほんのひろば」に参加して貰えるようにと「ブックトーク」や「えいごえほん&うた」の会が開かれました。

２０・２１日のけやきメンバーによる「ブックトーク」の会では、珍しい写真絵本や一緒に声を出して楽しむ絵本、ビックリ！ドキドキの絵本が何冊も楽しく紹介されていき、ブックトークの後、子どもも大人も紹介された本を手にとって見ていました。

２１日のカナダ出身のポールさんによる「えいごえほん&うた」の会では、子どもたちは発音よく！色や動物の名前を答えたり、頭から足の先まで両手でタッチしながら英語のうたを歌ったりと大喜びでした。元気いっぱいに遊んだ後のひろばには、親子でゆっくり絵本を楽しむ姿が見られ、帰りには借りたい本を何冊も予約表に書き込んでいました。驚いたのは、ひろば３時まで、お昼ごはんを食べるのも忘れて！「えほんのひろば」で遊んだ幼稚園の男の子がいたことです。面展台の間をくるくると回って絵本を選んでは、お母さんやひろばのスタッフに読んでもらっていました。

今年もお母さんと一緒の親子連れが多く、お父さんは数えるほどでした。小学生の息子と頭を寄せあって絵本を見たり、幼い娘たちに絵本を読んでいるお父さんの姿もありました。来年は、もっともっとお父さんにも「えほんのひろば」で子どもたちと一緒に絵本を楽しんで貰いたいと願っています。　（奥坂）

手に取ってほしい 読んでほしい この本

おすすめの本・24冊

トゥルー・ストーリーズ

ポール・オースター著　柴田元幸訳
新潮文庫 新潮社　2004年

現代アメリカ文学の作家で、詩人で、映画の脚本でも活躍するポール・オースターの、これはエッセイ集である。書名が示すとおり実話に基づくエッセイを集めているが、そのどれもが「これは実際にあった出来事である」と注釈をつけなければ信じられないようなエピソードばかり。

たとえば、台湾に留学中の米国人と中国人の会話。「ニューヨークに住んでいる姉がいるの」「私の姉さんもよ」と話すうち、二人の姉は同じアパートの同じ階に住んでいることが判明する。また、人生で四回しかパンクを経験していないのに、そのすべてに同じ友人が乗車していたこと。小説の場面とそっくりの間違い電話が作家にかかってきた話。

オースター自身の半生を書いた「その日暮らし」や9.11の「覚え書き」も含まれ、あとがきによれば著者自ら目次立てを提案したそうだ。著者はその後、ラジオ番組でリスナーから募集した実話を『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』という本にまとめたりもしている。

事実は小説より奇なりとはよく言ったものだが、何編もの「事実」を読み終えてみると、人はこんなにも物語を欲しているのであり、人生には「小説」が必要だとしみじみ思う。

私がこの本を手に取ったきっかけは読書会だった。その日の課題本『幽霊たち』（同著者）も決して悪くはなかったのに、参加者6人中3人がなぜかこの本を副読し、異口同音に「こっちのほうが面白い」と述べたのだった。本との巡り合いもまた、奇跡のような偶発性に満ちている。　（会員・大橋慈）

海賊たちの太平洋

杉浦昭典著　ちくまプリマーブックス　1990年

タイトルの言う「海賊たち」は、私たちが海賊と聞いて思い浮かべるような、荒くれの無法者たちとは一味違います。フランシス・ドレークとジョージ・アンソンは、イギリス女王の名の元に、艦隊を率いて他国の船や植民地を襲い、自国に財宝を持ち帰った英雄でした。そして、危険な帆船で、未知の海へ命がけで挑んだ勇敢な冒険者たちでもありました。コロンブスが新大陸を見つけた頃にはほとんど知られていなかった「太平洋」は、彼らのような「海賊たち」の周航によって、明らかになっていったのです。

本書は、上記２人の大海賊の冒険譚を中心に、大航海時代の航海について分かりやすく紹介されたものです。児童書ですが、ゆえに読みやすく、内容的には十分大人も楽しめるものとなっています。著者の杉浦昭典氏は、航海の実情に精通された方で、その場にいるような臨場感あふれる描写と、豊富な知識で、読者をぐいぐいと海の世界に引き込みます。木造船の船底をフナクイムシに食い荒らされないよう行う手入れや、船上の時間は砂時計によって測っていたこと、船上で雨水を集めて清水を確保したという方法、乗組員の規律違反に対する厳しい刑罰のことなど、細かな知識も知らないことばかりで、船上生活への興味を掻き立てられます。

海賊をファンタジックに描くものが多い中、ここまで実態に即して面白く読ませてくれる本はなかなかないと思います。世界地図を片手に、読んでみていただきたいです。　（中京区・厚焼サネ太）

お直し とか

横尾香央留著　マガジンハウス　2012年

「お直し」というと、子どもの頃衣服の破れた所などを母が目立たないように繕ってくれたことを思い出します。一見直ってはいるけれど、やはり元とおりになった感じではなく、口に出しては言えないけれど、新品を買ってほしいと思ったものです。

今、自分の周辺を見回すと、必要なものを用途に応じてすぐに手に入れることが当たり前になっていて、「お直し」は何とも寂しい作業のように思ってしまいます。できることと言えば、そのものを使い切ろうと勤めることぐらいでしょうか。

しかし、著者の横尾さんの手にかかると、大切にしていた物の欠損部分から、今まで持ち主がどのようにそのものと関わってきたかが考え抜かれていて、お直し後、また新たなお付き合いが始まるうれしさといったものが感じられます。世界でたった一つの物に生まれ変わっています。ニットの虫喰い穴に空豆がくっつき、お気に入りの服についてしまったシミにはロゴマークの刺繍。可愛く目

立つお直し。そんな「お直し」の数々が、ゆるやかなエッセイとともに凝縮されている本。

以前、亡くなった義姉のギャザースカートを布ぞうりに編みこんで、もう一人の義姉にプレゼントしたことがあります。余りにも重いプレゼントになってしまいました。今度は横尾さんのように笑顔のほころぶお直しを心掛けようと思います。　（会員・北園）

ふしぎの植物学 身近な緑の知恵と仕事

田中修著　中公新書　中央公論新社　2003年

木も草も足を使って移動するわけではないけれど、ヒトが苦労してたどり着いた所にすでに到着しています。木や草に目はないけれど、大きさも様々なヒトの想像をこえたデザインの花を咲かせて競い合います。そして自分だけの香りを放って虫たちを引き寄せています、鼻もないのになぜ…。そうやって結実した実も、甘いの、酸っぱいの、苦いのと様々です。木や草が自分で味わうことはないのに…。もちろん表皮の感触も様々です。その上、体内時計の正確さは動物もかなわないというのです。どう考えても不思議です。実は木や草にも五感があるのでは？　脳がなくても脳に代わる何かがあるのかもしれない…　そんなことを思ったことがある人はぜひこの本を手に取ってみてください。植物のすごさに目を見張ります。

大文字山を食べる　山菜・キノコ採集記

安田陽介著　新風舎　2007年

大文字山は京都に住む人にとってとても身近な山です。毎月登る人、毎週登る人、そして著者のようにほとんど毎日登る人もいます。みんな大文字山が大好きです。でもこの著者が大文字山に寄せる愛情は並みじゃない！　大文字山の水を飲み、大文字山の草を食べ、木の実を食べ、木の芽を食べ、キノコを食べる、それが著者の日常です。本書はまるで縄文の採集生活のような著者の日々の記録であり、五感でとらえた大文字山のあれこれを綴ったエッセイです。

大文字山における京都市の里山管理の現状も具体的に知ることが出来、いろいろ考えさせられました。

本書は京都の本コーナーにあります。

なお、現在の著者の活動は、ブログ「大文字山を食べる」でリアルタイムに見ることが出来ます。

（以上２冊・会員・いしむら まり）

冬虫夏草を探しに行こう

ゲッチョ先生の森の学校

盛口満著　日経サイエンス社　1996年

冬虫夏草を知っていますか。昔の中国の人々が「冬は虫なり、夏は草なる。」と不思議がったものです。漢方薬屋へ行くと売られている、イモムシから細長い棒がでているような細長い干物のようなものです。正体は土の中にいるガの幼虫から生えてきたキノコの仲間です。

そんな冬虫夏草を紹介しているのがこの本です。でも単なる冬虫夏草の図鑑や解説書とは少し違います。著者が冬虫夏草を知って、実際に探して、観察した記録文的な内容です。

冬虫夏草は、地中にいるガの幼虫以外にもセミの幼虫から出るもの、幼虫だけでなく成虫から出るもの、地中だけでなく地上にいるアリなどから出るもの、はては空中を飛ぶトンボからでるものなど様々な種類があることにびっくりさせられます。また、生えてくるキノコの形や色が多様なことにも興味をそそられます。さらに、著者が実際に冬虫夏草を探し観察しているので、どんな所に、いつ頃は生えているかも具体的に書かれていて参考になります。

この本を読むと、冬虫夏草が結構身近にあり、だれでも見つけられるような気になってきます。これからが発生のベストシーズン。探してみたくなります。　（ヒロ）

飼い喰い　三匹の豚と私

内澤旬子著　岩波書店　2012年

三頭の豚のイラストに、衝撃的なタイトルが大きく書かれた表紙。『世界屠畜紀行』（解放出版社　2007年刊）で世界各地の屠畜現場を取材してきたイラストルポライターの著者が、実際に自分で種類の違う豚を飼い、つぶすのに立ち会い、それを食べるまでの体験ルポである。豚を飼える家を捜して改築し、悪戦苦闘しながら育てていく。重いテーマであるが、軽妙な語り口で非常に読みやすい。

著者は豚に名前を付ける。「今多くの人が厳然と信じているペットと家畜の境界を、私はあえて曖昧にしてみたい。名を呼んで、その動物に固有のキャラクターを認めて、コミュニケーションしたうえで、殺して食べてみたかった。」という。名前を付けたら愛着がわいてかわいそうではないか、という周囲の反発は大きかったようだ。実際に飼ったその日から可愛くて仕方がなかったというし、豚に対して細やかに愛情を持って接している様子が伝わってくる。豚を飼い続けたいという気持ちを持ちながらも、最後はおいしく丸ごと食べる会を開くまでの感情の変化。淡々とつづられているが、精密なイラストとともに、こち

らの心をゆさぶってくる。頭の片隅に残り、時折疑問を投げかけてくるような１冊である。　（左京図書館・西垣）

先生のお庭番

朝井まかて著　徳間書店　2012年

２年前に『生ゴミ堆肥ですてきに土づくり』（門田幸代著　主婦と生活社）に出会いました。家で出る生ゴミを土に変えて、それで野菜が食べれるなんて！と感動して以来、なんちゃってガーデナーを始めています。その影響なのか、急に園芸や庭が題材になったものに心が向くようになりました。

『先生のお庭番』は江戸後期の長崎、15歳の庭職人見習いである熊吉さんの視点でお話が進みます。教科書にも出てくる有名人、シーボルト先生が出島に作る薬草園の全てが、熊吉さん一人の手に任されます。弱った草木のために、畝の代わりに木枡を手作りしたり、種を守るために土でくるむことを考えたり。人手不足や経験不足を工夫と汗と、草木に寄り添うことで乗り越え、先生から「そなたは、よか仕事をする」と認めてもらいます。

欧州人の先生には「この地の草木の瑞々しさ、花の珍らかさに触れるたびに、人生が満ち足りた気持ちに満たされ、胸が震える」ように感じられます。私たちには当たり前の季節の移り変わりや自然は実は奇跡的で有難いものだと、異国から来た先生だからこそ見出せるのだと熊吉さんは思います。

「剣より、花を。」を心に生きる先生、先生を草木を敬愛してやまない一途な熊吉さん、彼らをめぐる人々の一見勝手に思えるけれども自分に嘘をつかない、温かい世界を是非味わってみてください。

もしこの世界が気に入ってくださった方には『柿のへた』（梶ようこ著　集英社）もおすすめです。

（左京図書館・加藤）

A Tree Grows in Brooklyn

Betty Smith　1943年

晴れた日は図書館へいこう

緑川聖司作　宮崎康子絵　小峰書店　2003年

私にとってこの二冊は特別な本です。二番目の本を最近読み、子どもの頃から今まで何度も読んだ一番目の本を、本当に懐かしく思い出しました。

一番目の本の邦訳はありません。有名な読み物にしては、不思議です。が英語の原書は、心にしみるような言葉でありながらもシンプルな英語で書かれています。英語に少しでも自信のある方におすすめします。

二冊ともの主人公は、図書館が大好きな女の子です。お逢いできるようならきっと仲良しになれるこの女の子達ですが、「晴れた日」のしおりちゃんは、図書館に通いながら色んな人々そして何と色んなミステリーにも出会います。中でも最後のミステリーは読者だけではなくしおりちゃん自身の心も躍らせます！

一方、“Tree”のフランシスは、20世紀初頭にアメリカの貧しい移民の街ブルクリンで力強く生きている想像力豊かな女の子です。フランシスのお母さんは日々の生活に工夫を重ね、食べ物がない時だって家族で「南極ごっこ」をします！　食べ物を切らしていて助けが届くまで辛抱強く食べずに待つのです！　フランシスはいつも本を読み、得意な読書力を生かして大きくなった時に仕事を見つけます。

読者は、“Tree”を読みながら丁寧に描かれたフランシスの決して豊かではない人生の歩みを、「可哀そう！」と思うどころか、「羨ましい！」と思うでしょう。本の力なのでしょうか。親子で世代を超えて読める、心に残る本だと思います。　（会員・レウナキ マイラ）

ジョコンダ夫人の肖像

E.L.カニグズバーグ作　松永ふみ子訳

岩波書店　1975年

イタリア・ルネサンスの巨匠、レオナルド・ダ・ヴィンチその人を、この４月に亡くなったアメリカの児童文学作家カニグズバーグが、彼女ならではの独自の視点で描いた作品です。

画家であるばかりでなく、自然科学や工学・土木・哲学と「万能の巨人」と呼ばれるほど広範に、天才としての足跡を標したレオナルド・ダ・ヴィンチですが、その生涯や人となりについては多くの謎が残されています。作者はイタリア旅行で彼が描いた僧院の壁画を目にし、不思議な魔力を感じたと言います。さらに彼に関する様々な資料を読み進める中で、レオナルドを「冷たい天才」ではなく「天才をもった人間」であると思うに至り、この作品が生まれました。

物語は、嘘つきで泥棒の浮浪児サライを中心に展開します。少年サライこそが、レオナルドを完璧主義の桎梏から解き放ち、自由奔放さ＝「ワイルド」を与えたのでした。また、姉と違い美貌に恵まれないが聡明なミラノ公妃ベアトリチェにも、レオナルドは多いに触発されます。カニグズバーグは、レオナルド、サライ、ベアトリチェ、この三人の出会いと交流を生き生きと描くことによって、「ほとんど肖像画を描かなかったレオナルドが、なぜ無名の商人の妻『ジョコンダ夫人の肖像』＝『モナ・リザ』を描いた

のか？」という疑問を解く鍵を読者に差し出しているのです。

(会員・永井麻里)

あしながおじさん

ジーン・ウェブスター著　石原未奈子訳
ヴィレッジブックス　2011年

親愛なるジェルーシャ・アボックへ

どうも、ごきげんよう！このあいだ、あなたが主人公の「あしながおじさん」を読みました。とてもおもしろかったです。

特に、あなたの日常が、あしながおじさんにあてる手紙で書かれているところが素敵で、あなたが野原で走りまわっているところや、友達とワイワイ騒いでいるところ、なやんでるところが目にうかぶようでした。

私が、あしながおじさんだったら、あなたに返事を出さずにはいられないだろうと、何度思った事でしょう。あんなに素敵な手紙をもらって返事を出さないあしながおじさんが、ふしぎでたまりません！

あなたの考え方一つ一つが素敵で、強い女の子としてすごくそんけいしています。あしながおじさんにたよらなくても、自分の力で作家になれる、自分で考える力のある人だと思います。

あなたの手紙を、ほかの人にも読んでもらいたいものだわ！

きっと、大切な人に手紙を書きたくなるはず！

胸に手をおきて　さらば・・・。流石川こさく　より

追伸　　石原未奈子さんの訳がよかったわ。
あなたのおもしろさが良く出ていた！
（流石川こさく）

かあさんのうた

大野允子文　山中冬児絵
おはなし名作絵本　ポプラ社　1977年

今もある風景を見るとあざやかに心にうかぶ一冊の絵本があります。「おかあさんのうた」という絵本です。それは広島原爆のお話です。八月六日、広島に原子爆弾の落とされた夜、町はずれのくすのきの下へも、おおぜいの人がにげてきました。みんなやけどをおって、もううごけない人もありました。その中に、くすのきは、小さなうたごえをきいたのです。まいごのぼうやをだいてうたっているのは、おさげのかみの女学生でした。かあさんをよびつづけるぼうやをほっておけなかったのです。小さなかあさんになった女学生は、くすのきによりかかってぼうやをしっかりと抱いて、いつまでも子もりうたをうたいつづけました。最後には2人とも死んでしまうのですが、胸がつまって涙がとまりませんでした。わたしはくすの木をみると、必ずお母さんを思いながら亡くなったこの二人の子をおもいます、そして立ち止まってこもりうたを歌うことにしています。おかあさんはあなたたちを決して忘れないという思いを込めて。

広島在住の著者が原爆への静かな怒りを込めて描く名作の絵本で、くすの木が見た風景が繊細で美しいお話でした。山中冬児さんの透明感のある絵も印象的です。長崎源之助さんと一緒の作品が多い山中さん。その長崎さんも原爆の語り部でした。私は戦争の経験がありませんが、この本を通じてあってはならない事、恐ろしい、悲しい事、でも決して忘れてはいけない事として読み継いでいってほしい絵本のひとつです。ポプラ社のおはなし名作絵本のシリーズ30巻はかつては私と子どもたち、今はおばあちゃんと孫の「お話のたまてばこ」になっています。その中でも「かあさんのうた」は我が家の忘れられない一冊です。

(左京区・山下敬子)

わたしのせいじゃない　せきにんについて

レイフ・クリスチャンソン文
にもんじまさあき訳
ディック・ステンベリ絵
1996年　岩崎書店

大人にも子どもにもきちんと大切なメッセージを伝えることができる。それが絵本の魅力であると思う。この「わたしのせいじゃない」はそんな魅力的な絵本の中でもとびっきりの名作だ。

昨今話題のいじめ問題。解決なり対策などというものが求められる。そこでは得てして犯人探しに関心が集まり、いかに懲らしめるかに議論が偏りがちだ。そして、多くの人たちはその顛末をテレビのこちら側からながめている。テレビを見ている多くの「わたし」は自分のせいであるかもしれないなどとは夢にも思っていない。

悪い行いや社会問題などというものは、どこかの悪い人たちがやっていることなのだという思い込みがある。そして、自分はそんな悪い人たちとは違うというある種の安心感がある。そうしてそこに無関心が生まれる。

この本はそんなわたしたちの無関心に気づかせてくれる。

多くは語らない。けれど、実に多くのことを訴えてくる。いじめだけではない、戦争、飢餓、果ては公害まで…いや、人によってはもっともっとたくさんの問題と自分との接点を探し始めることだろう。

気難しい論文？　それとも分厚いルポルタージュ？　いえいえ、たった30ページに満たない、文字も少ない絵本です。　（左京区・こさちゃん）

地下鉄 Sound of colors

ジミー＜幾米＞作絵　宝迫典子訳　小学館　2002年

地下鉄に乗って、盲目の少女の旅が始まる。

殆どのページに言葉は一行、心に沁みる言葉と緻密な、本当に緻密な美しい絵の世界。

「りんごは今でも赤いのだろうか？」

“あきらめ”と“希望”　“悲しみ”と“喜び”　“闇”と“光”

…交錯する思い…

つまづき、迷いながらも「心に輝き始めた　かすかな光を」で終わる物語。

巻末にリルケの「盲目の女」を掲げる。「今を生きずにいつを生きるというの　全ての色は音にかわり　香にかわる　全ての色は　限りなく美しい音色で応えてくれる…」。英題「Sound of Colors」。

昨年度ベルギーの青少年文学賞を受賞したこの作品は、2001年台湾でベストセラーになった大人のための絵本。

「君のいる場所」Separate ways 、「君といたとき、いないとき」With my little moonに次ぐ3冊目の作品。

100ページを超える繊細な絵で繋がれたものがたりは、少ない言葉ゆえに読み手に、静かな感動と癒しを与えてくれる。得られた幸せを、赤いりんごを、見上げる青い空を、私たちは忘れてはいないだろうか？

ささくれ立った心を鎮め、明日を迎える元気をくれる一冊。おすすめです。　（会員・ねこまま）

母　オモニ

姜尚中著　集英社　2010年

姜尚中(カン サンジュン) 氏は、東京大学院教授、政治学専攻の著名人であり、在日２世です。私は、その生い立ちや生き方を知りたいと思いました。

「母-オモニ-」は、母、禹順南 (ウ スンナム) =永野春子の生涯を、小説風に記したものです。

母は韓国南の鎮海 (チネ) に生まれ、１６才で日本に渡り、同郷の姜大禹 (カン デウ) と結婚し、戦争末期の東京大空襲、名古屋大空襲をへて、熊本で終戦を迎えました。その後は、廃品回収業の永野商店を営み、貧困、差別、朝鮮戦争の激動の中、マサオとテツオ(著者)を育てます。

テツオは、カンコクやチョーセンときくだけで逃げ出したくなる青年でした。そして、父母の国韓国を訪ね、「永野鉄男か……。でも姜尚中じゃないか。どちらも本当の自分なんだぞ。どうして姜尚中から逃げてきたんだ。逃げなくてもいい。ありのままでいいんだ。」と、「在日」を生きることに決めます。

母の晩年、著者と妻、子供2人と、オモニとで、桜並木の坂道をのぼってゆきます。熊本で、生まれ故郷の鎮海の桜を回想しながらの対話。テツオの子供、「ここの桜とどっちがきれい？」オモニ「うん……そうねえ……どっちもきれいかよ。桜だけん。」

もうすぐ桜の季節がやってきます。花は無心に美しく咲くでしょう。海峡をこえて、あちらの国でも、こちらでも。　（左京区・工藤和子）

出星前夜

飯嶋和一著　小学館　2008年

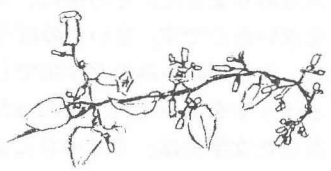
1637年陰暦5月から物語は始まります。

島原半島では腸チフスが流行り、子供達が次々に亡くなっていきました。それは、中央から遣わされた領主、松倉家の、その土地の自然条件などを無視した長年に渡る苛政のため、食糧不足から体力を失う子供が増えていったためです。子供達を救うべく長崎まで馬を走らせる者、それに応えて一刻も早く、と、舟で島原へ向かう医者、薬籠を提げて医者に従い助手を務める若者、もちろん迎える子供の親達、皆の気持ちが一つになっていきました。医者が携えて来た薬はすぐに使い果たし、事態は悪くなって行く中、領主松倉家に対する抵抗へと発展し、それが拡大、島原の乱と言われるものになって行きます。

物語の中に、強靭な体力と強い意思を持った一人の若者が登場しますが、いくつかの偶然が重なって彼は仲間と最後まで行動を共にすることは出来なくなってしまいます。その事に悩み、苦しみ、なんとか仲間の元へ戻ろうと試みている中で、以前助手を務めた医者と出会い、その人を助けつつ医術を学び、病児を診ているうちに島原の乱は終結を迎えることになってしまいました。

彼が、乱の後どのような人生を歩んだのか、詳細には描かれていません。が、この作品の中での彼の生き方から、彼のその後を想い巡らせていける余韻を強く残す作品です。

史実を淡々と描き、感情を抑えた表現の中に、人としての矜持を守って生きる人間を生き生きと描き出しているのが飯嶋和一の作品の魅力です。　（会員・増井和子）



医学生

南木佳士著　文芸春秋　1993年

この作品は、南木佳士さんの小説ですが、1993年に単行本として，そして1998年に文庫本として出されたものです。

南木さんの本は、殆ど読んでいますが、著者は敢えて大衆小説としたと述べられていますこの「医学生」は繰り返し読んでいる本です。

作品は、出身や年齢も異なる４人の学生が、新制の東北、秋田大学の医学部で学び苦悩しながら成長していく６年間のことと、そして卒業後15年を経過した後のことを丁寧にきめ細かく書かれたものです。

特に、この４人が６年間を終え，それぞれの新しい人生を歩み始める卒業の場面で、中島みゆきの「時代」を聞きながら別れていく描写に私自身の学生時代を重ね合わせて、幼稚だった自分と同じような時代が描かがれていることに懐かしい思いを感じさせてくれます。

又、この本では卒業15年後の４人の姿が描かれていますが，その中で、南木さん自身をモデルとした医師とこの４人のひとりである女子医学生の描かれ方に何とも言えない温かさが私の大好きなものとなっています。　(Y)

破　船

吉村昭著　筑摩書房　1982年
（新潮文庫　1985年）

貧しい漁村に生きる少年伊作の家庭を中心に書かれた物語。もうすぐ大人の仲間入りをする年齢に達している伊作は、父に替わり生活の糧を得るため漁の仕方を覚え、村のしきたりをとおし村の禁忌を知っていく。

浜で行われている塩焼きは、単に塩の生産をしているのではない。浜で一晩たかれる火は、嵐の夜に難破船を呼び寄せるための灯りで、運よく村の近くで座礁すれば、積荷はもちろん船の材まで、船もろとも頂戴する。それが「お船様」と言われるものだ。恵みは村おさにより村民に平等に分配される。これは秘密を共有することでもあり、役人の査察に怯える日々を意味していた。そんなリスクを承知していてもなお、いつ到来するかわからない恵みの「お船様」を待つ。

ところがある年の「お船様」がもたらした物は、「疫病」だった。乗せられていた死人の着物を奪ったことで、無知な村民はばたばたと死んでいった。罹患した人は蔓延させないために山の中に入り死を待つ決断をする。伊作の家族も例外ではなく妹は死に母と弟は山に入った。独りになった伊作は、この絶望的な状況を受け止め、懸命に生を繋いでほしいと願うが、伊作の今後は読者に委ねられている。　（会員・仏手柑）

特別授業３・11 君たちはどう生きるか

あさのあつこ 他 著

河出書房新社　2012年

「３・11で何が問われ、何を学ぶべきか。
今とこれからの生き方を考えるために―」

この様な言葉で始まるこの本は、あさのあつこさん初め色々な分野の第一線で活躍中の方々が先生になり、東日本大震災が何だったのかをあらゆる角度から読み説き、伝えてくれています。

授業は、国語、歴史、倫理、地理、政治、理科、経済、保健、課外授業 (ボランティア)の９教科に加え「数字から読み解くための付録資料」が付いています。

作家の池澤夏樹さんは、「歴史 ―きみは歴史の中にいる 」の授業の中で、「世界史は単なる年表ではない。今ここで起こっていることであり、それを踏まえて先に続く道を未知という霧の中で探ることだ。」と言われています。

震災は、日本の歴史だけでなく、世界史に残る悲しい出来事になりました。そして原発の問題は、世界が注目する中、今もまだ解決の糸口すら見えません。

３・11―震災とその後の歴史の中に生き、そしてこれからの歴史を作っていく全ての人に、知ってほしい、そして考えてほしいという思いの詰まった本です。

（駒井三佐）

学力と階層　教育の綻びをどう修正するか

苅谷剛彦著　朝日新聞出版　2008年

小学校教員を退職して1年が経った。ここ20年近くの「教育改革」に疑問を持ちながらも，立ち止まってふり返る余裕すらなく走り続けてきた。今も「私たちは学校で何をしてきたのか。」との思いを抱いている。

そんな時手にした本書である。

90年代からの「新しい学力観」導入で授業の有り様を変えることになったが，子どもたちのテストの正答率は，家庭の文化的環境の影響を受けていることが多くのデータで示されている。これは、教員としての私の実感とも重なる。

また本書は単に「学力」だけを取り上げているのでなく，より根源的な課題に迫ろうとしている。

戦後の教育は「画一的」といわれてきたが，
「義務教育国庫負担制度」「教職員標準法」で全国どこの

町や村でも同じレベルの教育が行われてきた。1980年代の国際学力調査での日本の評価は，平均点が高いだけでなく，学力のちらばりも小さい国といわれていたということである。

今「教育の地方分権」の名のもとに「小中一貫校」6・3・3制の見直し，「学校選択制」などが進められており，戦後教育の柱である「教育の機会均等」は大きくゆがめられてきている。

このほか、多くの視点で「教育改革」をふり返る手助けとなった。　　(左京区・M・T)

井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法

井上ひさし文　いわさきちひろ絵　講談社　2006年

井上ひさしさんが亡くなって3年がたちました。

彼が忠臣蔵やお米、日本語のことについて造詣が深いのは知っていました。国のあり方を決める憲法についても、豊富な資料に基づいて研究され、やさしいことばで書かれているのを知ったのが、この本です。

この本は2005年11月から2006年4月に朝日小学生新聞紙上で連載された「私たちの国の平和憲法、知ってる？」をもとに作られたそうです。「あとがき」でこう言っています。「なにか大きな失敗をしでかしたあとは、ああ二度とあのような失敗をしないようにしようと思う。そこが人間のすばらしいところです。第二次世界大戦のあと……この世界の人たちの想いや願いをひとつところに集めたものが、じつは日本国憲法です。……これを捨てることは、世界の人たちから、希望をうばうことになりますから」

いま、私たちの日本国憲法は危機にひんしています。もし、自民党の憲法改正草案などのように改定されたら、言いたいことも言えない悲惨な世の中に、確実になります。この本では、前文や9条、13条、96条などの大事なことが、いわさきちひろさんの絵とともにやさしいことばでつづられています。大切にすべきものであることがよく分かると思います。

井上さんばかりではありません。いのちの大切さを訴える人が、次々とこの世から去ってゆくようになってしまいました。今こそ、井上さんのメッセージを開いてみてください。岩波ブックレットNo.812『二つの憲法』もどうぞ。　　(左京区・K.K)

「主権者」は誰か　原発事故から考える

日隅一雄著　岩波ブックレット　岩波書店　2012年

著者の言葉を引用して、ご紹介します。

「戦後、私たちは主権者として振る舞うことをわすれ、あまりに多くのことを国会議員、そして官僚に任せすぎた。……私たちが主権者として振る舞うために、「思慮深さ」を身につけたうえ、積極的に政治に参加していかなければ、この国は変わらず、また取り返しのつかない「何か」が必ず起こるだろう」。

そして、示唆に富む文章として戦後間もない時期の中学生に文部省が呼び掛けた『あたらしい憲法のはなし』が引用されています。

“今のうちに、よく勉強して、国を治めることや、憲法のことなどを、よく知っておいてください。もうすぐみなさんも、おにいさんやおねえさんといっしょに、国のことを、じぶんできめてゆくことができるのです。みなさんの考えとはたらきで国が治まってゆくのです。みんながなかよく、じぶんで、じぶんの国のことをやってゆくくらい、たのしいことはありません。これが民主主義というものです” 当時中学生だった私はこの教科書を覚えています。

憲法第九条

小林直樹著　岩波新書　岩波書店　1982年

「日米安保体制も、その中核をなす軍事装置（在日米軍と自衛隊）も、人間の作り出した組織と戦闘用具であって、どう変えることも出来ない宿命ではない」(215ページ)

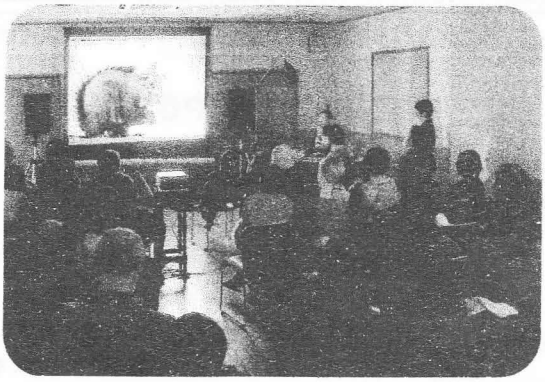
―この本が出たとき、まだ冷戦の時代だった。でも、ソ連を北朝鮮や中国やロシアと置き換えれば、今も通ずる話である。

「もしも国民が、核戦争そのほかさまざまな問題を、本気で具体的に掘り下げるようになれば、世論が平和主義の方に向かって変動する可能性は、これから十分にありうる。……自衛隊の根本的な改編は、多くの抵抗が予想され、最悪の事態としてはクーデターの可能性も考えられるから、……種々の衝突や妨害も覚悟しなければならない。しかし、平和主義の道を切り開こうとする多数の国民がいれば、それは達成しうる現実の目標である。何よりも日本の国民が、こうした目標を追求し続けることこそが、転落や破滅への道から脱出する唯一の希望の手がかりなのである。」(218ページ)

―困難な、危険な状況をここまで縷々解説してきた最後のこの明るさ。そう、希望を捨ててはいけないのだ。夢は持ち続けなければ。　　(以上2冊・会員・川端春枝)

Report　写真家小寺卓矢さんのスライド＆トーク

けやき・左京図書館共催　2012年12月8日



著書『いっしょだよ』を手にお話される小寺さん

森に魅せられ、森の写真を撮っているうちに「森の素晴らしさ、奥深さを人々に伝えたい。」という気持ちが芽生え、それらの写真に自分の言葉をつけ、写真絵本として出版しておられるのが小寺卓矢さんです。12月9日、その小寺さんをお招きして映像とトーク「森がおしえてくれたこと」を開催しました。

まず、彼が写真を撮る姿勢の根底を流れるものは何かをレイチェル・カーソン著「センス・オヴ・ワンダー」からの一節を紹介して、感動の大切さを話されました。次に、自作の３冊をとりあげ、絵本の写真をスクリーンに映しながら読んで下さいました。その３冊の間、間に「なぜ北海道に住むことになったのか」、「北海道の冬の寒さはどの様なものか」、「森からどんなことを感じたか」など、実体験を子供にもわかりやすく披露されたので、興味をそそられたお子さんもいました。

中田麦さんのマリンバ演奏の柔らかい音楽にのせて、朗読もお話もなく映像のみが流れていく最後には、参加者が森に引き込まれてでも行くような静かな雰囲気が会場を包みこんでいきました。

森の樹々も人も同じ地球の生き物。樹は芽生えた時から動かず、ずっと同じ場所で樹としての一生を全うするのに対し、人は多くの場合自分の意思で動けるという違いはあります。でも、それぞれの周りには必ずほかの生き物が存在している、という点では共通しています。それら多くの生命が有機的に繋がりあってこそ豊かな世界が生まれてくるわけです。一つ一つの生命が他の生命とどう関わって生きるかが大切なのではないでしょうか。樹は、芽生え育った場所での一生を終えた後も苔やキノコ、動物たちを育み、大きな意味での生命を育てていることも映像から伝わってきました。人も動物としての一生を終えた後も何らかのかたちで自分の生命を受け渡していけたら嬉しいな、と感じた一日でした。　（増井）

けやきの本棚41　私のおすすめの本

ふくろうくん

アーノルド・ローベル作　三木卓訳　文化出版局　1976年

この本には、ふくろうくんのたのしいおはなしが５つあります。わたしの大好きなのは「こんもりおやま」のおはなしです。ふくろうくんは、ベッドの足もとにあるふたつのおやまが気になってねむれず、とうとうかんしゃくをおこしてしまいます。おやまがじぶんの足だと気づかない、どじなふくろうくんが、とてもおもしろかったです。

（下鴨小２年・山内楓）

きみにあえてよかった

エリザベス・デール文　フレデリック・ジュース絵
小川仁央訳　評論社　1997年

この本は、ベンという男の子がいて、いつもいっしょで一番の友だちだったスクランピィという犬が病気になって死んでしまってものすごく落ち込んでいたけれど、ある出来事がきっかけで、新しい犬をかうというお話です。

私がこの本で一番好きな場面は、ベンがスクランピィの死という悲しみから立ち上がり、新しい犬をかうところです。

（養徳小５年・E）

けやきの活動 13年1月～4月

1/上旬～　ニュースレターNo.41号原稿作成・編集
2/16　「図書館で発表会」展示作業
2//16～3/17　「図書館で発表会」
2/28　左京区ボランティアグループ連絡会に出席（増井）
3/上旬～　「えほんのひろばinきょうと」準備
3/12　左京区子どもに関わるボランティア交流会に参加（永井）
3/17～　「図書館で発表会」後片付け
4/19　「えほんのひろばinきょうと」の絵本の展示準備、面展台搬入
　おたのしみ会練習
4/20　子ども読書の日記念事業　おたのしみ会に協力
4/21.22　「えほんのひろばinきょうと」担当、会場でブックトークも

・1/26.2/23.3/23.（第4土曜）
　図書館おたのしみ会に協力
・1/25.2/22.3/8.4/26
　絵本学習会（第4金曜日、3.7.12月は第2金曜日）
・1/7.2/4.3/4.4/1.
　事務局会議　原則第1月曜日）
　図書館とのミーティング
・1/10.1/17.1/24.1/31.2/7.2/14.2/21.2/28.3/7.3/14.3/21.3/28.4/4.4/11.4/18.4/25.
　絵本コーナーで'あかちゃんに絵本を'サポーター活動（毎週木曜10:30－12:00）

◆図書館友の会 けやき の仲間になりませんか◆

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい
そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所
それが私たちの願う図書館です

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。
図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森
左京図書館のおたのしみ会（毎月第４土曜日11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃんに絵本を」サポーター
毎週木曜日10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える
図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部
友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局
けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会
毎月第４金曜日10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会
主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ
下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局　京都市左京区高野東開町1-23　26-101　永井方
TEL/FAX 075-721-2625
郵便振込口座　口座番号　００９２０－８－１５６９１４番
口座名称　図書館友の会　けやき
◎ゆうちょ銀行の口座をお持ちの場合、口座間振替で無料で送金できます。
年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。
◆活動費のカンパも歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

❒ 絵本学習会
時：毎月第4金曜　午前10～12時
　3、7、12月は第2金曜
所：左京図書館の上３階会議室
テーマを決め図書館から本を借りその場でみんなで読み合っています。読んでもらう喜びが味わえ、新たな発見も生まれます。とっても楽しい集まりです。5月は24日、「小学校国語教科書おススメの本1.2年生」を読み合います。どなたでも、どうぞ気軽に、ご参加ください。

❒ 京都市子ども文庫連絡会・京都市中央図書館　合同学習会
リンドグレーンとベスコフの生涯と作品　　講師 石井登志子氏
時：5月30日(木)午後1時30分～
所：京都アスニー第2研修室
問合せ：京都市子ども文庫連絡会
kyotoshikorenn@yahoo.co.jp

❒ 京都おはなしを語る会による
第30回 語りを楽しむ会
時：5月 31日(金)10:30～12:30
所：ひとまち交流館京都第5会議室
問合せ：松本 075-571-7751
　潮見 075-952-5536
左京図書館「大人のための語りを楽しむ会」を担当しているグループです。

編集後記

▽図書館でも書店でも、つい自分の関心のある棚に足が向きがちですが、沢山の本が集まった今回の特集が、思いがけない本との出会いとなったり、本の世界が広がる手助けになれば幸いです。紹介文を書いてもらった本は、今頃、書架で出番を心待ちにしていることでしょう。（き）

▽山歩きが好きです。やせ尾根や岩場、丸木橋など毎回びくびくものですが、山頂から見渡す大パノラマや出会う植物たちに魅せられ、細々と続けています。今、中高年の登山の危うさが問題視されていますが、情報を集めじっくり下調べをするためにも、もっと図書館に山の本を！（り）

◇けやき　第41号　2013年5月13日
◇制作　図書館友の会 けやき　ニュースレター編集部
題 字　高野のYさん　タイトルバック　岩倉のSさん
カット　高野のHさん
◇発行　図書館友の会　けやき
京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方
TEL/FAX 075-721-2625